

令和3年度 屏風ヶ浦地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

屏風ヶ浦地区は区内でも高齢化率が高い地区であり、また一人暮らし世帯も多い地域である。地形の関係で丘陵地の地域と平地の地域があり、狭い道が多く戸建が中心であるが交通の便が悪い。一方駅前についてはマンション等集合住宅が中心となっているが、高齢者のみの世帯や単身世帯も多くケアプラザへ足を運ぶのが難しい方もいる。汐見台地区はマンションが次々と建設され、若い世代、年少者数は増加しているが、高齢者の単身世帯も多い為、相談ケースも増加している。汐見台地区においてもケアプラザまでは坂道となっており、ケアプラザまで足を運ぶのが難しい方が多い。両地区に共通する点としては、昔から住む世代と転入されてきた若い世代との交流が難しく、また地域を支えている活動や自治会町内会活動に若い世代の参加が減少している現状があり、担い手不足となっている様子が伺える。ケアプラザとしては、両地区が取り組んでいる様々な活動、行事への参加や地域福祉保健計画等に事務局の関りを通じて後方支援を行い、関わる方々との関係を深めることでより地域に根付いた関係が構築されるよう、積極的に地域へ出向いていきます。周知について、ケアプラザニュース等を活用した広報活動を継続的に行い、高齢者に限定せず多世代の方の利用、相談できる場所であることを発信し続ける事に加え、自主活動事業の実施場所をケアプラザだけでなく各町内会単位の集いの場所へ広げる活動を行い、来所が困難な方も含め、より多くの方に周知できるよう働きかけていきます。また、若年層への直接的アプローチとして、小中学校生へ実施している認知症サポーター養成講座実施を通じて、更なる周知となるよう地域へ出向いた活動を実施継続していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ケアプラザ周知として、単一自治会毎に訪問し、ケアプラザで行われている講座や活動の周知を行う。特に今年度については、子育て支援に繋がる自主事業の周知に努め、新しい世代の参加者、来館者に繋げる。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	認知症の方とその家族への支援のため、「介護者のつどい」や「いきいきシニアセカンドライフ講座」において、認知症に特化した講座を定期的で開催する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	区域内の居宅事業所・訪問介護・訪問看護・通所事業所・地域の居場所やサロンなどに磯子区社会福祉士連絡会やケアプラザにて作成した消費者被害瓦版を送付等行い、地域の必要な情報発信へつなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	汐見台地区において、エレベーターのない高層階在住の高齢者等と支援者向けに介護予防講座を行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	中原・久良岐丘地区それぞれに向けて、タクシー会社(エヌケイキャブ)との協議体を開催するためのアセスメントと分析を、住民とともに進め、目指す方向性を見出す。その後、タクシー会社と当該地区がつながるための協議体を開催し、「あったらいいな」をできることから始めてみる。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

第3四半期までの振り返りとしては、コロナ禍であった前半においても工夫する事で事業の実施を行い、ケアプラザ周知に務めた。結果として感染者を出すことなくケアプラザ利用に繋がった。コロナ禍における地域との繋がりについては可能な限りの連絡や情報収集を行い、中止となっている地域活動再開への情報を逃さず11月後半～12月に再開される活動について、実施の後方支援、参加する事ができた。今年度の計画は地域の方々への働きかけや地域へ出向く計画が多く、地域活動の中止や集まる事への懸念により第3四半期まできっかけを見出すことができない中、第4四半期にようやく動ける活動も多々あり、その結果によっては次年度に持ち越す可能性も考えられる。

区からのコメント

・コロナ禍に翻弄されつつも、前年度から手掛けているスマホ講座を支えあいの仕組み作りで発展させるなど工夫がみられました。また地区別計画の推進についても地区の特性に合わせて区・区社協とともに第4期初年度推進に尽力頂き、推進の土台ができたと思います。次年度も感染状況を見ながらはなりましたが、地域の方々の主体性を引き出しながら事業に取り組んでいただければと思います。  
・認知症事業検討会にて、正しい認知症の理解や介護者支援は課題として出ていました。早速、今年度の講座等を取り入れてくださり、ありがとうございます。認知症の症状や知識を前もって知っていれば、もっと優しく対応できた等、と介護者が後悔する声も聞きます。すべての世代に認知症の正しい理解を伝えていくことは、価値があると思います。来年度も継続して取り組んでいただけると幸いです。